

策定年月	令和5年8月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：五霞町

(作成主体：五霞町農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

五霞町の麦作は、小麦の生産量が実需者からの要望を満たしておらず、大麦については増産の要望を受けている状況である。このことから、今後はさらなる面積拡大による増産を図り、実需者ニーズに応じた生産を図っていく必要がある。

また、近年は、高齢化による離農等の影響により、担い手への農地の集約が急速に進み、農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失や、農作業の負担が増大している。このことから、農作業の省力化を一層進めるためにも、ドローン等のスマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要となっている。

さらには、今後の麦作拡大において持続的な生産を図るためには、土壌診断に基づいた地力の増進、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が求められる。

○取組方針

- ・農地中間管理事業等を活用し農地集積を進めるとともに、団地化に向けた地域の話し合いを推進する。
- ・県内の集出荷業社及び、集出荷業者が取引する実需者との連携を支援し、市場のニーズに応じた生産を実行していく。
- ・生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。
- ・湿害対策、土壌改良、施肥調整、化学肥料・農薬の低減、スマート農業等の営農技術の導入を実施し、生産性の向上を図り単収の安定を実現する。

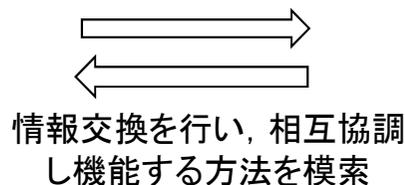
※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

1 産地及び実需者

産地：(株)五霞グレインファーム(生産者)
 (株)アグテック飯島(生産者)
 五霞町、農業再生協議会、農業委員会、
 農業委員会、土地改良区、JAむつみ等



実需者

2 連携方針

【産地】 実需者の提示する需要量となるよう生産量の調整をする。
 実需者の求める品質等に向けた取組を実施し、高位安定化を図る。
 実需者の求める品質や生産状況、意見交換に基づき営農技術等の導入を図る。

【実需者】 需要量の提示
 産地における取組に対する評価等のフィードバック

3 生産量(計画)

作物名	品種名	令和4年度(現状)			令和8年度(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	ゆめかおり さとのそら	61	335	203	96	380	364	面積の欄 R4年産(R3播種) 【面積】 グレインファーム 40ha→45ha、アグテック 21ha→51ha
大麦	カシマ ゴール	16	259	43	18	290	52	【面積】グレインファーム 16ha→18ha

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

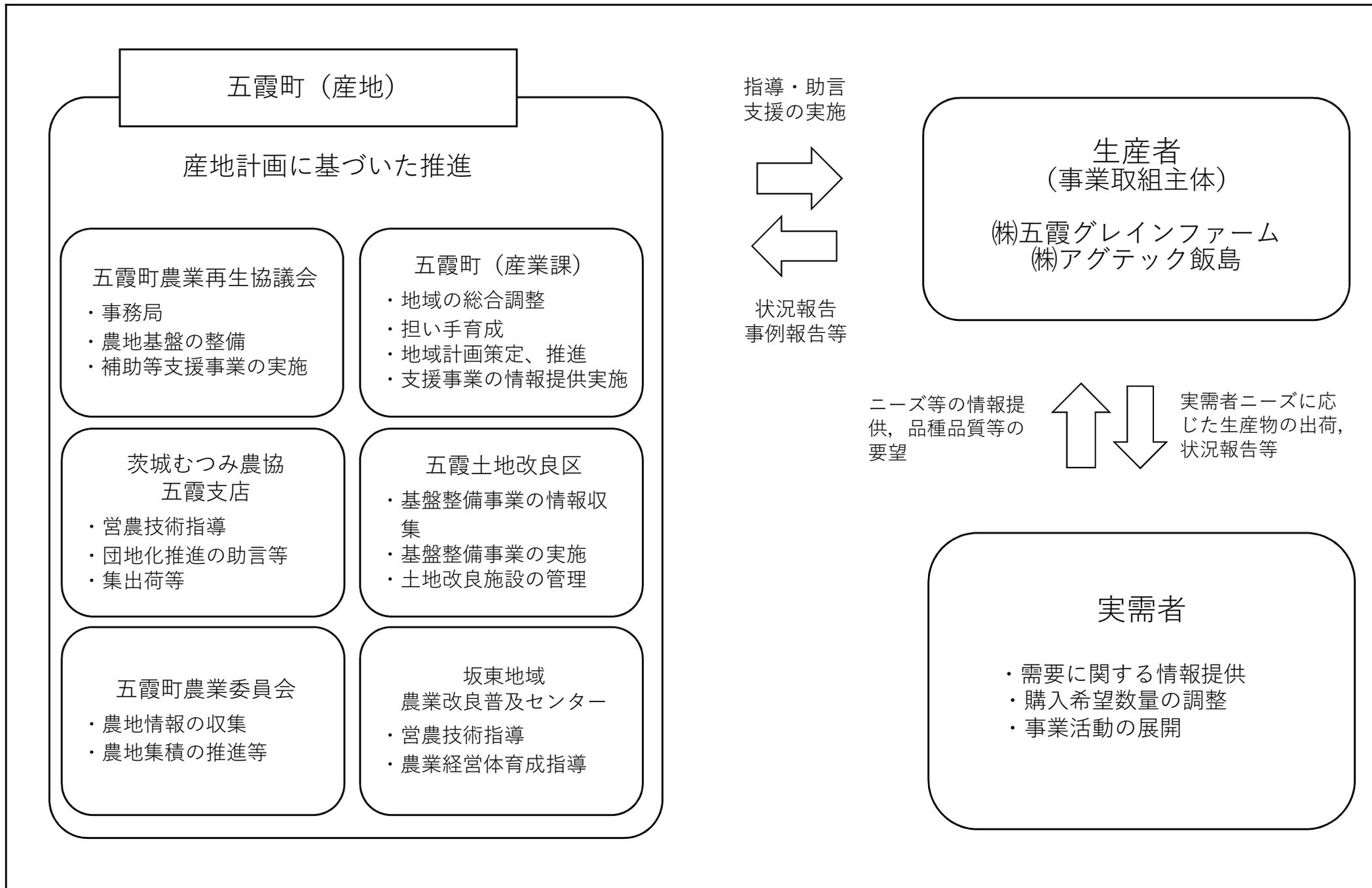
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。